

永平寺町学で行ったフィールドワークの成果を発表する県立大の学生(左側) 23日、同町のえい坊館



永平寺町活性化を提案

県立大生 住民取材の成果発表

永平寺町にある県立大の学生が23日、一般教育科目「永平寺町学」で行ったフィールドワークの成果を同町のえい坊館で発表した。自然、まちづくりなどテーマ別の班に分かれ、学生目線で地域活性化策を提案した。

県立大は2017年度から町との連携授業として永平寺町学をスタート。本年度は1、2年生計20人が学部を超え、自

然▽まちづくり▽農業▽産業の4班に分かれ、現場に足を運び、住民から話を聞くなどしてまとめた内容を披露した。地域住民を含め約40人が参加した。まちづくり班は志比北地区に入り、世代を超えた地域交流が進んでいる。米粉を使った野菜ケーキの商品開発を提案し、児童館を併設し、一緒に畑作業などをする活性化案を提言した。経済学部1年の川端麻友さんは「座学やフィールドワークを通じて地元の魅力を感じることができた。学生が多い地域で若い人が地元を知る第一歩になったと思う」と話していた。(竹内史幸)